福岡支部は
今年10年目
を迎えます

# あしたのかわら版

人工内耳友の会〔ACITA〕福岡支部

第　22　号
2016年7月1日（金）
人工内耳友の会［ACITA］
福　岡　支　部
eメール acita-f@awa.bbiq.jp
発行責任者　伯川末行
FAX 092-821-9266
編集責任者　樋口弘行
FAX 092-691-9341

## 平成二十七年度 福岡支部総会開催

## 総会が終わり新年度へ

### 今年度の主な支部活動

支部ニュース第九号（四月発行）で報告の通り、支部の定期総会を四月二十三日『あいあいセンター』で開催、議案はすべて提案通り決定し、今年度の活動が始まりました。

なお、支部役員は任期二年で、今期いっぱいが任期、現役員を中心に活動を進めます

### 主な活動計画

現在の支部組織は

正会員　二十二名
賛助会員　五名
合計　二十七名

昨年より四名増です。四名の増は久々のことで、皆さんで歓迎するとともにこれからの活動に意を強くしています。

いまの支部構成は、佐賀県に支部が出来るまでの期間限定で、両県が一緒に活動を行っています。友人・知人などで装用の方がおられましたら、声をかけたり、装用者の情報をキャッチして支部へお知らせください。

**一．福岡支部は十周年に**

**二．活動の要点**

支部の活動そのものは年によって大きく変わるものではありません。今後とも活動の中心は次のとおりです。

①学習会と会員交流
②日帰りバス旅行の定着
③新年交流会
④機器・電池代等の助成請願
⑤会報と支部ニュースの発行

総会参加者

**三．年間日程（予定）**

七月　「あしたのかわら版」発行
九月　「人工内耳の日」記念行事（学習会）
十一月　日帰りバスツアー
一月　「あしたのかわら版」発行
　　新年交流会
四月　支部定期総会

総会の後「茶話会」を行いました。神澤直美さん、山本美裕紀さんの司会進行で楽しく和やかな時間を過ごしました。

また熊本地震への義援金カンパを行い、わずかですが熊本支部へお届けいたしました。

【報告・伯川】

## 義援金御礼

**熊本支部長　林田誠子**

このたびの熊本地震に際しては福岡支部の皆様にも大変ご心配をおかけいたしました。そして早々に義援金をいただき心から感謝申し上げます。紙面をお借りし御礼申し上げます

地震発生後すぐに伯川支部長、樋口副支部長より「会員の皆様は大丈夫でしょうか？」と安否確認のメールをいただきました。お陰様で物的損害を被った会員はあっても人的被害を受けた会員はありませんでした。

余震の数は減ってきましたがまだ当分は地震に注意するよう気象庁が呼び掛けている、そういう状況の現在の熊本です。

## 馬耳東風

▼『社長限界です』これは不祥事対応の原則である。社長限界です＝謝・調・原・改です。まず謝罪する、次に実態を調査し、その原因を把握する。そして改善策を講じるということである。▼今年も不祥事には事欠かない。車メーカーのデータ不正、芸能人の不倫、政治家の口利き、公費の公私混同など。同じ不倫でも落語家の不倫はすぐにほとぼりが冷めたが女性タレントの場合は「溺れる犬を叩く」がごとしであった。▼公私混同の件も「謝調原改」に則って対応していれば辞職にまで追い込まれ、大金を投じての出直し選にはならなかったのではとも思う。市民感覚から外れてはいるが、もっと巨悪はいるかもしれないのに。▼謝罪どころか『上から目線』で反論ばかりしていては火勢は収まるどころか強くなるばかりだ。そうなってから泣きを見せても遅い（弘）

# 定期総会
# 「一般社団法人」化
## 来年度移行へ

## 本部総会報告

六月十一日　浜松市福祉交流センターで、本部の定期総会が開催されました。今年は総会単独開催でした。

この定期総会のみの開催地は原則として、会員が多く参加しやすい関東・東海・関西地域で交互に開催するため、今年は東海の浜松市でした。

総会は、毎年開催される「ＡＣＩＴＡ」の最高決議機関で、代議員制ではなく会員各個人の直接参加方式です。

（欠席の会員は委任状の提出が必要）

総会の目的は

①年度の主要活動と決算報告の承認。

②新年度の事業計画と予算案の決定

③役員改選その他の重要事項です。

更に、この総会は、会員同志が年に一回、顔合わせをしてお互いを確認し合い、親睦交流を深めるための一大イベントでもあります。

総会の模様は会報「明日」一一四号（八月末発行）で、報告がありますので、ここでは身近なところを中心に、簡単な概要に止めます。

総会では、議事に先立ち、今年三月、五十代の若さで亡くなった前事務局長　今野　聡さんのご冥福を祈って一分間の黙とう。

また、会場では、先の熊本地震で被災された会員支援の資金カンパの呼びかけがあり、思い思いのカンパを行いました。

総会は、松田会長挨拶の後、議長に塩田さんを選出、資格審査では、本人出席と委任状で成立要件である過半数で成立。

議事では

・二〇一五年度活動報告
・同年度収支決算・監査報告
・二〇一六年度活動方針案
・同年度予算案・役員改選

の各議案について提案説明と質疑応答のあと、全議案とも提案通り可決しました。

総会風景

活動方針では法人化への取り組みとして法人は、非営利型の「一般社団法人」とする。

来年度設立に向け、法人組織の設立、現在の任意団体組織解散等の手続きや諸課題については、専門家の助言を得て遺漏なきよう対処することになりました。

今年は任期二年の役員改選期に当たり、運営委員・ブロック長・監査の改選が行われました。

役員になり手が無い中、役員選考委員会で選考された新役員は、運営委員が留任十二名、新任一名です。

運営委員の中で、伯川支部長が副会長に留任しました。

ブロック長では、九州ブロック長兼務の伯川支部長が退任し、後任には熊本支部長の林田誠子さんが選出されました。なお、総会翌日には、拡大運営委員会が開催され、法人化への諸課題についてその取り組み方など、認識の共有が図られました。

【報告・伯川】

## 九月九日は「人工内耳の日」

私たちの周りには「〇〇の日」と言うのがたくさんあります。

我々に直接関係するもので、三月三日　「耳の日」六月六日　「補聴器の日」です。

「ＡＣＩＴＡ」では、その続編として階段を上るように、だんだん聞こえが良くなることを願いつつ、覚え易い九月九日を「人工内耳の日」と決めています。

支部においてもこの趣旨に則り、具体化に向け検討中で、決まり次第お知らせしますので、ぜひご参加ください。

## 備えあれば患（うれ）いなし
### 熊本地震を経験して

熊本支部　林田誠子

私が住んでいるのは七階建ての高齢者対応マンションです。引っ越しの際食器棚は前に開くタイプではなく左右に開閉する引き戸が良い、タンス類はなるべく低いものをとアドバイスを受けましたので買い替えておりました。本棚も前後二列に収納するものに買い替え、整理タンスとともに部屋に固定しておりました。

四月十四日(木)
二一時二六分前震発生
(M六・五　最大震度七)

四月十六日（土）
〇一時二五分本震発生
(M七・三　最大震度七)

想像を絶する揺れにもかかわらず居間の押し入れから飛び出したものが散乱した程度で食器が飛び出したり家具が倒れたりする被害はありませんでした。アドバイスを聞いて買い替えていてよかった～と実感しました。

日頃から地震に対する備えをしておくこと。ご近所とのお付合いを大事にしておくことを痛感しました。そして何よりも人工内耳で聞こえることへの感謝でもありました。

## Member's Profile （19）

## 永松勝弘（ながまつかつひろ）さん
（中間市在住）

梅雨に入り紫陽花の咲く季節となりました。

はじめまして私は中間市在住の永松勝弘と申します。人工内耳を装用して一年三ヶ月になります。

音が聴こえなくなったのは、平成二十六年八月頃左耳が急に失聴、体がふらつき歩行困難、嚥下（えんげ）困難等の症状が現れ、係り付けの病院で検査の結果聴覚神経腫瘍血管破裂と判り即、入院。九月に手術で聴覚を失いました。手術後は音から切り離された時の孤独感、家族や、孫との会話が出来ない、今まで聞えていた声が聞えない寂しさ、辛さ、右耳の方は幼い時から失聴、そんな中、人工内耳の事を知り平成二十七年一月十三日目に九州大学病院受診、先生が「右耳の方は聴こえなくなった年数が長いので検査の結果が良ければ人工内耳の埋込手術で、静かな部屋での会話でしたら聞える事が出来ますよ。」と説明の言葉に胸が詰まり涙した事でした。

一月二十七日検査、二月十三日に検査結果説明。検査の内容を聞くまで不安でしたが、人工内耳の埋込が出来ると説明を受けホット致しました。

そして二月二十七日人工内耳の埋込み手術、三月に音入れ。最初はすべての音が入り混迷する事がありました。又、初めは話の聞き取りなど理解しがたく、リハビリを続ける事で僅かですが少しずつ聞き取りが出来る様になりました。聴こえないつらい半年間でしたが、嬉しいことに右耳に人工内耳の埋込み手術のおかげで陽射しが見えたことでした。現在は三ヶ月に一度のリハビリを受けておりますが聞えの方は通常の会話よりゆっくりであれば話は出来ます。又、孫達との会話はタドタドシイ会話ですが楽しく話しており、会話が出来る喜びを噛み締めています。人工内耳を装用した頃は人目を気にして出歩くことが控えめでした。今は気にする事無く外出、家庭菜園で色々と作っております、又、時期が来れば無理をしない程度の山歩きなど楽しむ事が出来ます。理想的な聴こえにはかなりの年数が掛かりそうですが、定期的にリハビリの継続そして私自身が日々、努力していくことです。

「聴こえる喜び」を先生方に感謝致します。

## 九州ブロック長に林田さんが就任

本部総会で九州ブロック長は伯川末行さんに替り林田誠子さん（熊本）が就任され、伯川さんは本部副会長に留任となりました。（福岡支部長兼任）

# 福岡大学医学部に坂田俊文教授が着任されご挨拶をいただきました

福岡大学 医学部
耳鼻咽喉科
坂田俊文

私は一九六〇年生まれで、二十才まで広島で育ちました。

一九八七年に福岡大学医学部を卒業し、そのまま大学病院の耳鼻咽喉科で働き始めました。

最初の一〇年間は福岡市内や北九州市の関連病院でも修行をしました。

次の一〇年間は医師としての仕事以外に研究者としても活動する毎日でした。そしてあと一年で三〇年目を迎えようとしています。

これだけ時を経てもまだ知らないことが多いので、硬くなりかけた頭で勉強の毎日です。

二〇一六年四月からは、中川尚志先生の後を引き継ぎ、耳鼻咽喉科の診療部長を努めています。

専門は難聴と聴覚異常感で、耳鳴りや聴覚過敏、耳閉感といった症状に悩む方の診療をしています。

手術は中耳炎や難聴に対する耳科手術、鼻づまりや副鼻腔炎に対する鼻科手術などを中心におこなっています。

休日の私は目的のない散歩を楽しんでいます。

お天気が良いと人が少ない方向を選んでぶらりと出かけます。草木が薫る自然や昭和の香る町並みを見つけると、しばし時の流れを忘れて頭を空っぽにします。すると不思議なことに昔出会った人達が陽炎のように現れ語りかけてくるのです。

中には四〇年以上も思い出さなかった人が登場することさえあります。

やがて空腹になると我に返るのですが、その瞬間、何年もの時空を飛び越え、たった一人で未来に来てしまったような気持ちになって切なくなります。

これも加齢変化なのかなと苦笑しつつ、馴染みのスーパーマーケットに寄って家路につきます。

人工内耳友の会の皆様とは滅多にお会いする機会がありません。

それでも何か私にできることがあれば協力させていただきます。今後ともよろしくお願い致します。

## 編集後記

「備えあればウレイなし」

憂いか、患いか。

辞書で調べると両方が出てくる。語源は四書五経の書経に出てくる「有備無患」らしいが憂いのほうが馴染み深いかと・・・。

今回はあえて患いを使ってみた。この欄までたどり着いた人は「かわら版」をじっくり読んでくれた人だろう。果たして何人の人が気付き、この欄を読んでくれるか。ちょっと気になるところだ。